

# メディカル給食・在宅配食サービス市場 に関する調査を実施（2017年）

～患者や高齢者の在宅へのシフトにより、在宅配食サービス市場は拡大の見通し～

## 【 調査要綱 】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内のメディカル給食市場、在宅配食サービス市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2017年4月～6月
2. 調査対象:メディカル給食・在宅配食サービス事業者、病院、特別養護老人ホーム、老人保健施設、関連団体等
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・郵送アンケート等によるヒアリング、ならびに文献調査を併用

### ＜メディカル給食、および在宅配食サービスとは＞

本調査におけるメディカル給食とは、病院給食（入院患者・病院職員給食）、ならびに高齢者施設給食（入所高齢者・施設職員給食）を対象とし、委託事業および非委託事業（施設運営事業者直営）の双方を含む。

また、在宅配食サービスとは在宅の高齢者や身体障害者、糖尿病や肝臓病などの在宅患者（又はその予備群）に対して、定期的に食事の宅配を行うサービスをさし、地方自治体が独自予算で実施し利用者個人が一部負担する公的補助サービス（「横出しサービス」ともいう）と、利用者個人が全額を負担するサービスを対象とする。

## 【 調査結果サマリー 】

- ◆ **2016年度のメディカル給食・在宅配食サービス市場規模は2兆2,011億円、前年度比101.3%と微増**

2016年度のメディカル給食（病院給食、高齢者施設給食）、在宅配食サービス（在宅健康食・治療食）を合わせた国内総市場規模は末端売上高ベース（給食サービス最終価格ベース）で、前年度比101.3%の2兆2,011億円であった。国内の病院数、病床数ともに微減傾向が続いており、病院給食市場は減少する見込みである。

- ◆ **高齢者施設給食と在宅配食サービスが市場を牽引し、メディカル給食・在宅配食サービス市場は今後も堅調に推移**

分野別でみると、2016年度の病院給食市場は前年度比99.3%の1兆1,776億円、高齢者施設給食市場は同103.4%の9,045億円、在宅配食サービス市場は同106.3%の1,190億円（いずれも末端売上高ベース）であった。日本は超高齢社会を迎え、高齢者施設の増加と在宅高齢者の増加により、高齢者施設給食と在宅配食サービスの市場は拡大する見通しである。

- ◆ **資料体裁**

資料名:「2017年版 メディカル給食、在宅配食の市場展望」  
 発刊日:2017年6月29日  
 体裁:A4判 508頁  
 定価:220,000円(税別)

- ◆ **株式会社 矢野経済研究所**

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL:<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

㈱矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:[press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

## 【 調査結果の概要 】

## 1. 市場概況

2016年度のメディカル給食(病院給食、高齢者施設給食)、在宅配食サービス(在宅健康食・治療食)を合わせた国内総市場規模<sup>※</sup>は、末端売上高ベース(給食サービス最終価格ベース)で前年度比101.3%の2兆2,011億円であった。

分野別でみると、病院給食は伸び悩んでいるが、超高齢社会を迎え、高齢者施設の増加と在宅高齢者の増加により、高齢者施設給食と在宅配食サービスの市場は拡大が見込まれる。

政府の推進する在宅医療や在宅介護といった施策を背景に、今後も高齢者施設給食と在宅配食サービス市場は市場全体を牽引する有望市場であると予測する。

※参考資料:介護食市場に関する調査を実施(2016年) 2016年10月28日発表  
<https://www.yano.co.jp/press/press.php/001602>

## 2. 分野別の動向

## 2-1. 病院給食

2016年度の病院給食の市場規模は前年度比99.3%の1兆1,776億円(末端売上高ベース)と微減であった。今後についても、病院の統廃合や閉鎖、診療所の無床化により、病院数、病床数ともに微減傾向が続いており、病院給食市場は減少する見込みである。病院経営の効率化を目的として進展してきた病院給食の外部委託も、人手不足や食材費の高騰を背景に一頃の勢いはない。

## 2-2. 高齢者施設給食

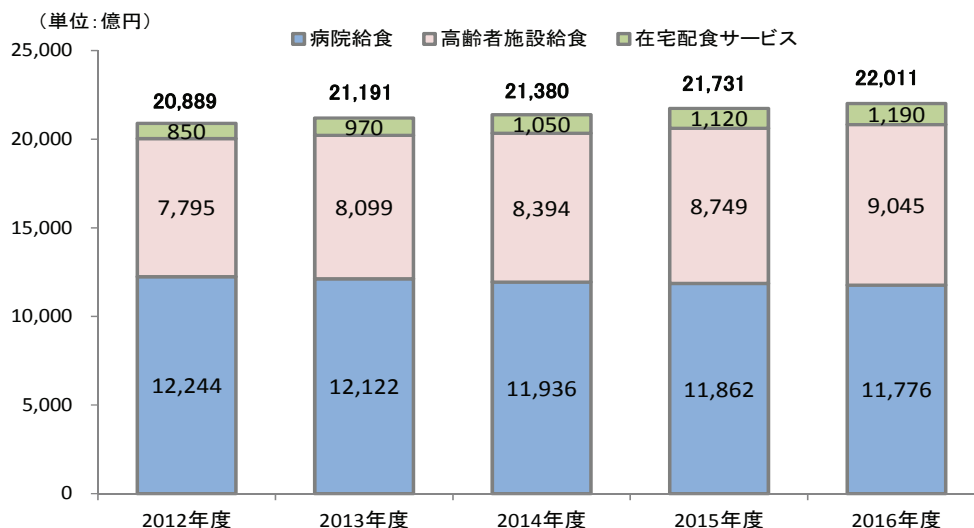
2016年度の高齢者施設給食の市場規模は前年度比103.4%の9,045億円(同ベース)であった。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設は施設数が漸進的となるため、成長率は鈍化する。有料老人ホームは施設数が増加しており、また新規建設施設は概ね給食委託で参入するところが多く、外部委託率は上昇すると考える。

## 2-3. 在宅配食サービス

2016年度の在宅配食サービスの市場規模は前年度比106.3%の1,190億円(同ベース)であった。地方自治体が独自予算で実施し利用者個人が一部負担するサービス(「横出しサービス」ともいう)は、厚生労働省の介護保険制度による入所者食の個人負担化に伴って、施設でも自宅でも食事は個人が負担するものとの考えから、公的補助の減額、廃止などで伸び悩んでいる。

民間事業者の在宅配食サービスはここ数年やや落ち着きを見せているが、患者や高齢者の在宅へのシフトが続いており、在宅高齢者の増加により、在宅配食サービス市場は拡大する見通しである。

図1. メディカル給食・在宅配食サービス市場の分野別市場規模推移



矢野経済研究所推計

注1. 末端売上高ベース(給食サービス最終価格ベース)

注2. 病院給食(入院患者・病院職員給食)、高齢者施設給食(入所高齢者・施設職員給食)は、施設運営事業者から委託された専門のサービス事業者が食事を提供するサービス(委託事業)と、病院や施設の運営事業者が食事を提供するサービス(非委託事業)の双方を含む。

注3. 在宅配食サービス(在宅健康食・治療食)には、在宅の高齢者や患者(又はその予備群)に対して定期的に食事の宅配を行うサービスをさし、公的補助サービス(「横出しサービス」ともいう)と、利用者個人が全額を負担するサービスを対象とする。